

くすりのしおり

注射剤

2025 年 12 月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ファモチジン注射用 10mg「オーハラ」

主成分：ファモチジン (Famotidine)

剤形：注射剤

シート記載など：



この薬の作用と効果について

胃粘膜壁細胞のヒスタミン H_2 受容体を選択的に遮断することにより、胃酸分泌を抑制します。その他にもペプシン分泌を抑制したり、胃粘膜血流量を増加させるなどの作用を有します。

通常、上部消化管出血、Zollinger-Ellison 症候群、侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制、麻酔前投薬に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。腎障害、心疾患または肝障害がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（（ ）：医療担当者記入）
- ・上部消化管出血（消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による）、Zollinger-Ellison 症候群：通常、成人は 1 日 2 回（12 時間毎）を 1 週間程度、静脈内にゆっくりと注射する、または点滴で注射します。筋肉内に注射することもあります。
侵襲ストレス（手術後に集中管理を必要とする大手術、集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷）による上部消化管出血の抑制：通常、成人は 1 日 2 回（12 時間毎）静脈内にゆっくりと注射する、または点滴で注射します。筋肉内に注射することもあります。手術後の集中管理または集中治療を必要とする期間（手術による侵襲ストレスは 3 日間程度、その他の侵襲ストレスは 7 日程度）使用します。
麻酔前投薬：通常、成人は麻酔を行う 1 時間前に筋肉内に注射もしくはゆっくりと静脈内に注射します。
- ・効果をみながら使用期間を決めていきます。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

副作用として、発疹・皮疹、蕁麻疹（紅斑）、顔面浮腫、月経不順、女性化乳房などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・呼吸困難、全身潮紅、蕁麻疹 [ショック、アナフィラキシー]
- ・全身倦怠感、脱力、発熱 [再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、溶血性貧血、血小板減少]
- ・発熱、広範囲の赤い発疹、眼・口・陰部のただれ [皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症]
- ・食欲不振、全身倦怠感、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・筋肉痛、体がだるい、赤い尿が出る [横紋筋融解症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

SI②